

校下(地区)町会連合会または町会を対象団体に、町会加入や活性化に向けた自主的な取組を支援する補助制度を創設しました。

助 成 内 容

対象事業	対象団体	補助金額
I コミュニティ活性化プラン策定事業 地域の課題、地域コミュニティの将来像又は目標、具体的な活動内容等を記載したプランを策定する事業	校下(地区)町会連合会	補助対象経費の4分の3以内 限度額 75 万円
II 特 別 事 業 上記 I のコミュニティ活性化プランに基づき、実施する活性化事業	コミュニティ活性化プランを策定した校下(地区)町会連合会又は当該校下(地区)町会連合会が推薦する町会	補助対象経費の4分の3以内 限度額 50 万円
III 一 般 事 業 町会への加入促進や住民交流等 地域コミュニティの活性化を図る事業	校下(地区)町会連合会又は校下(地区)町会連合会が推薦する町会	補助対象経費の4分の3以内 限度額 30 万円

申し込み方法や募集期間について

●毎年、4月以降に「地域コミュニティ活性化事業募集要項」を金沢市ホームページに掲載するなど公表の上、募集します。

問合せ先
金沢市市民協働推進課

電話 076-220-2026 FAX 076-260-1178 Email kyoudou@city.kanazawa.lg.jp

金沢市は、町会等の地域団体や市民活動団体の活動の支援や団体相互の連携を促進することで団体の活動の活性化や地域コミュニティの充実を図るため、平成30年9月に市民活動サポートセンターを開設しました。

既に地域のために活動されている方々、これから何か始めたいと考えている方々をサポートします。



問合せ先

金沢市市民活動サポートセンター

金沢市片町2丁目5番 17 号 金沢学生のまち市民交流館内
電話 076-225-7763 FAX 076-255-0164
Email support_center@city.kanazawa.lg.jp

金沢市 町会活性化事例集



金沢市では、地域コミュニティの醸成と充実を図るため、地域コミュニティの活性化に向けたプランの策定や加入促進、活性化に向けた自主的な取組を支援しています。

このたび平成29年度に「地域コミュニティ活性化モデル事業」として実施された事業のうち、主な11事業を事例集としてまとめましたので、町会加入促進や活性化の参考例としてご活用いただければ幸いです。

事例集 目次

事例 1	弥生町会連合会	弥生ゆかりの偉人木村榮博士に光をあて、その偉業を広く伝える活動 …	P2
事例 2	安原地区町会連合会	安原地区いんぎらあ〜と盆踊り大会 …	P4
事例 3	薬師谷地区町会連合会	やくしだに・みんなの食堂 …	P6
事例 4	台誠会(菊川)	町内空き家の荒廃防止・景観維持と跡地の利活用 …	P8
事例 5	法光寺町会(千坂)	町内会独自の「役に立つ防災・減災訓練」 …	P10
事例 6	問屋住宅町会(諸江)	協働の町づくり・人づくり …	P12
事例 7	大河端町会(浅野川)	町会ホームページによる町民参加型コミュニティ創造事業 …	P14
事例 8	北寺町会(川北)	「農業体験と収穫祭」による町会活性化事業 …	P16
事例 9	東三馬町会(伏見台)	萬時、馬九行久(ばんじ、うまくいく) まちの寺子屋 …	P18
事例 10	光が丘2丁目町会(額)	ひかりサロンカフェ開設運営事業 …	P20
事例 11	泉が丘致芳会(弥生)	町会誌発刊事業-町名変更50周年記念 …	P22
		平成29年度地域コミュニティ活性化モデル事業として採択された事業一覧 …	P23
地域コミュニティ情報1		地域コミュニティ活性化事業について …	P24
地域コミュニティ情報2		金沢市市民活動サポートセンターについて …	P24

弥生町会連合会

弥生ゆかりの偉人木村榮博士に光をあて、その業績を広く伝える活動



共同実施団体：弥生公民館、泉小学校、泉中学校、金沢ふるさと偉人館

目 的

生誕地が地区内にある弥生ゆかりの偉人木村榮博士の業績を広く伝える活動を通して、次代を担う子供たちに夢と学業への励みを与え、また、弥生の文化的な雰囲気さをさらに高めることにより、泉小・泉中を中心に広がる「文教地区 弥生」の資質のより一層の向上を目指す。

概 要

- (1) 木村榮博士の活躍の地である岩手県水沢（現在の奥州市水沢区）から講師を招いて講演会を開催した。『日本の黎明期における木村榮博士の水沢での観測とZ項』という講演題目で、泉中学校3年生約110名、泉中教員数名、地域住民約40名、その他外部から数名の計約160名を対象に講演していただいた。
- (2) 木村榮博士が発見した「Z項」について解説した小冊子（A4 25頁）を印刷体（50部）及び弥生公民館インターネット・ホームページ上で作成した。印刷体は講演会参加者を中心に配布した。

実施スケジュール

時 期	内 容	場 所	備 考
H29 8月～9月	・連携団体（弥生公民館・泉小学校・泉中学校・金沢ふるさと偉人館）を巡り講演会講師、会場等の検討・相談 ・講演会講師との折衝		
H29 11月16日	講演会	泉中学校	講師：大江昌嗣 氏 （国立天文台名誉教授）
H29 10月 ～ H30 1月	「Z項」解説小冊子の作成		執筆者：大橋信喜美 （弥生町会連合会会長）

事業の運営体制

役 割	人 数	備 考
講演会に向けての準備	3人	講師との折衝、会場探し
講演会講師対応	8人	送迎、随行、歓迎会
「Z項」解説小冊子の作成	4人	1（執筆者）+ 3（討論・校正など）
会計業務	1人	

事業実施にあたり工夫した点など

最も留意した点は講演会講師の選択である。木村榮博士の活躍の地が岩手県水沢（現在の奥州市水沢区）であったことに鑑み、国立天文台 水沢で研究生活をされた方が最適であるとの判断に立ち、インターネットで検索する一方で金沢ふるさと偉人館の方々の意見を拝聴し、国立天文台名誉教授の大江昌嗣氏にたどり着くことができ、快諾に至った。大江昌嗣氏は、木村榮博士のご苦勞を身を持って体験された方で、本事業の中で行う講演会講師として最適な方であったと考える。

事業の成果

講演会は、「木村榮博士、Z項、宇宙ロマン」等の話題を盛り込んだ夢とロマンにあふれた魅力的な内容で、会場を埋め尽くした参加者は熱心に聞き入り、その模様は翌日の新聞にも取り上げられ、弥生が生んだ偉人木村榮博士の業績を広く伝えるに十分な効果があったと考える。

「Z項」について解説した小冊子によって、郷土の偉人の業績への理解がより深まることが期待される。

課題や今後の展望など

今回の活動を通して、郷土が輩出した偉大な科学者・木村榮博士の業績を地域住民の間に広める端緒になったと考えている。今後は、専門家ではなくともこのような問題に深い関心を有する地元の人を講師として講演会や勉強会を地道に続けてゆくことが有効であろうと考えている。

事業の写真



「Z項」についてのミニ勉強会



講演会の開催



安原地区町会連合会

安原地区いんぎらぁ〜と盆踊り大会



共同実施団体：安原地区公民館、安原地区婦人会、金沢市立安原小学校、金沢市立緑中学校、安原交番、安原地区街頭交通推進隊、安原分団、安原少年連盟、安原青壮年部、JA 金沢市安原支店、安原明生会、障害者施設「夢工房」、安原地区社会福祉協議会、その他安原地区各種団体

目 的

「安原地区いんぎらぁ〜と盆踊り大会」は、平成24年頃から特に高齢者の方々から「安原の盆踊り大会を復活しよう」との強い声があり、①地域の新旧住民間や家族間の絆の希薄化を払拭する願い②踊りの輪が取りもつ次世代間の友情や交流の場が必要との願い等々の背景がある。

概 要

盆踊り大会実行委員会を設立し実施

- 1 日 時 平成29年8月12日(土)18:30～21:00
- 2 場 所 JA金沢市安原支店前 駐車場
- 3 参加者 約700名
踊り子 ①安原婦人会、大会役員、来賓、安原地区の住民
②安原小学校の児童約30名が応援参加

盆踊り大会のパンフレットを作成し、安原地区の全世帯に配布



実施スケジュール

時 期	内 容	場 所	備 考
1 月	開催日程・場所の調整	安原会館	
4 月～5 月	関係団体との開催内容調整	安原会館	
6 月	第1回全体会議 実行委員会設立、予算の承認 パンフレット作成	安原会館	
7 月	第2回全体会議 会場配置、各担当の調整	安原会館	
7 月～8 月	役員及び担当者会議	安原会館	
随時	踊りの練習		
8 月12 日	盆踊り大会当日	JA金沢市安原支店前駐車場	
9 月	役員反省会	安原会館	
10 月	全体(総会)会議 収支決算報告	安原会館	

事業の運営体制

役 割	人 数	備 考
会議資料作成(随時の各種担当者会議資料を含む)	100名	
第1回・第2回全体会議	150名×2回	各町会長及び各種団体長等
役員及び各種担当者会議	200名	随時招集の打合せ会議
安原小学校・緑中学校及び出演協力団体との調整	100名	
設営業者・屋台仕入れ業者等との調整会議	80名	
踊りの練習(2日間)	400名	各町会住民、安原婦人会、安原小学校児童
当日の設営・撤収	300名	
反省会・総会	200名	事業内容・収支決算が適正か確認

事業実施にあたり工夫した点など

近年、他校下(地区)各町会等でも、内容のマンネリ化や、容易ではない地域伝統文化の継承から、地域の行事の開催が危ぶまれている状況である。

安原地区の盆踊り大会では、①ご当地盆踊りソング「やすはら音頭」を制作 ②簡単で分かりやすい振付 ③安原小学校の児童の応援参加 ④緑中学校吹奏楽部の生演奏 等において工夫し、地域と小・中学校の連携を図った。

事業の成果

盆踊り大会を開催することによって、安原地区の新旧の住民が融合し、連帯感を持つことができる場所を創出している。各種団体との連携により、お互いの協調性や理解が生まれている。

参加する小中学校の児童・生徒が盆踊りを通じて、住民の活動を理解し、地域や社会に貢献しようとする意欲や態度を養うことになると確信している。

課題や今後の展望など

参加者からの言葉を糧に、より一層の内容の充実を図る。

1. 安原地区内の青壮年部の男性を巻き込む方法を思案
2. 開催場所を安原小学校の「なかよし広場」で開催
3. 地区内の龍谷高校の吹奏楽部とも連携し、新たな魅力の創出を図る。

事業の写真



盆踊り大会の風景



盆踊り大会の風景

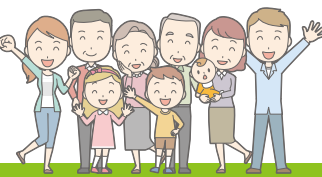


緑中学校吹奏楽部・兼六民謡のコラボレーション



屋台の風景





共同実施団体：薬師谷公民館

目 的

安全、安心を基調とした地域福祉・防災計画が主目的であり、そのために

1. 安全な日々を過ごすために
2. 安心できる日々を過ごすために
3. 地域交流・世代間交流 を3つの柱に据えた。
「やくしだに・みんなの食堂」は3. 地域交流・世代間交流の中の1事業である。

概 要

月1回のペースで、原則最終日曜日に実施。当初、貧困児童・独居老人を念頭においたが、それだけでは福祉救済活動で終わってしまうので、その方達を支える人たちも含む、地域全体の交流の場として位置づけた。

当事業では、地域在住の管理栄養士を中心に、献立作成、使用食材の決定、食器消毒等の衛生管理を行うとともに、実施当日、提供メニューを中心とした栄養健康指導のミニ講演も行っている。

参加者は、調理ボランティアを含めて毎回50人と設定しており、メニュー内容とともに、作るほうも食べる方も、双方楽しくするためになるよう心掛けている。

実施スケジュール

平成29年9月、10月、11月、12月及び平成30年2月に実施

時 期	内 容	場 所	備 考
毎月中旬	事前打ち合わせ	薬師谷公民館	メニュー・食材
毎月	食材調達、食器搬入		野菜寄付依頼等
毎月下旬	食堂実施・ミニ講演	薬師谷公民館	演奏等のボランティア
毎実施日	実施後の感想・反省	薬師谷公民館	調理参加者

事業の運営体制

役 割	人 数	備 考
実施内容・メニュー検討	5～6人	
食材調達・食器搬入	2～3人	金沢エコライフクラブの食器を利用
調理・会場設営	10人	

事業実施にあたり工夫した点など

- ・食材調達は、地元農家を含む広域に働きかけている。フードバンクも活用。そのため食材の種類も増えて、提供メニューも好評である。
- ・当初より金沢エコライフクラブの食器を利用してきた。軽くて洗いやすく、衛生管理も行いやすい。
- ・開催案内を、毎月「公民館だより」に掲載し、お知らせしている。また当日には食堂開催中の旗竿を出して知らせている。
- ・実施前に「栄養健康指導」や「資源活用」「食品ロス」などミニ講演会を実施。加えて、パフォーマンスボランティア(手品、ハモニカ演奏等)の協力もいただいている。

事業の成果

当初は全くの手探り状態でスタートした。2～30人のつもりが予想を超えて60人を超える人に参加していただいた。

そのこともあり、これだけの方が、ただ食べておいしかったと帰ってもらうだけでは勿体ないので、楽しんでもらい(ハモニカ演奏、手品等)、少々役に立つミニ講演(栄養健康指導、エコ問題等)も取り入れ、世代間交流できる雰囲気づくりを心掛けてきた。

また回数を重ねていく中で、食堂の認知度も高まり、食材提供者も増え続けている。併せて、「食品ロス」問題も見えてきている。

課題や今後の展望など

1. 調理ボランティアの人員は確保しているものの、準備や会場設営に携わるスタッフが不足している。地域の中高生にボランティア活動に加わってもらいたいと考えているが、地域を越えた大学生の勧誘も必要かとも考えている。
2. 会場から離れた地域の独居老人の方に来てもらえる手段を考えたい。
3. この食堂は地域コミュニティ醸成の場だけでなく、子供の教育(食育・ボランティア・食品ロス問題等)や、シニア世代への福祉実践の場でもあり、今後も大事に育てていきたい。

事業の写真



調理準備中。好調。



本日の献立



自分のことは自分で



今日も盛況です



おいしかった！





目 的

- ・ 町内の空き家・空地の荒廃を防止し、空き家の景観モデル作りを行う。
- ・ 清掃、修景などの活動を町内住人が行うことで、ご近所同士での心配りや景観意識の高まりを期待し、ひいては地域コミュニティの更なる醸成を図る。
- ・ 修景後の空き家空間を町内の人たちのコミュニティスペースとして利活用できないか、修景お披露目会を実施することで様々な意見を拾い、その活用方法を探る。

概 要

町内を貫く通りに面したA邸は、長く空き家として放置され、古木が枯れ雑草が生い茂ったままという状態で、景観を損ね、防犯、安全上好ましくない状況であった。所有者の了解を得たうえで荒廃防止のモデルとして選定し、①枯れた古木や隣地にまで伸びた樹木を伐採、草刈清掃等の修景作業を実施する。②修景後の場所の利活用を探る目的で、修景お披露目会を開く。

多くの方に来て見ていただくために温かな豚汁を振る舞う一方で、今回の事業の経過説明や、空き家の変遷などを写真パネル展示、また、看護師、介護士による健康・介護相談会を実施した。

実施スケジュール

時 期	内 容	場 所	備 考
12月	所有者への相談	町会内会議室	新聞販売店借用
1月	事業備品道具準備購入		
2月	除雪、樹木伐採、清掃	A邸	
2月	完成お披露目会	A邸	

事業の運営体制

役 割	人 数	備 考
企画・準備	5人	町会執行部
除雪、清掃、修景作業	延べ12人	町内有志
お披露目会	15人	会場設営・豚汁作り10人、相談会5人

事業実施にあたり工夫した点など

実施時期が例年になく大雪となったが、除雪、雑草除去、清掃に12人の有志が参加し、町内コミュニティの高まりを見せた。作業中に眺めていかれる住民に実施内容や趣旨を繰り返し説明し、空き家の荒廃防止の意義を伝え問題意識を共有できるよう努めた。

A邸をはじめ空き家、空地の利活用の声を広く聞きたく、修景完成お披露目会を実施し、延べ50人の方に参加いただいた。「暇な年寄りが集まれる場所があれば」などの声が聞かれた。

高齢化する町内を意識し、看護師・介護士など町内住人専門家による健康・介護相談会を開き、今後も気安く相談できる体制作りのきっかけとなった。

事業の成果

- ・ 修景後「通りがきれい」、「空が明るい」などの声が多く寄せられ、町内の景観向上に寄与啓発できた。
- ・ 餅つき大会やバーベキュー大会を毎年実施している町会の事業部を中心に、お披露目会を実施。温かな豚汁も好評、足の悪い高齢者にはお届けし、喜んでいただいた。
- ・ 新聞一面に大きく報道され、問題の大きさを皆が認識することになった。
- ・ 町内の景観意識が高まり、この後、月極共同駐車場の雑草取りなどを行い、今まで見過ごされがちであった場所にも目を向けることになった。

課題や今後の展望など

- ・ 空き家の荒廃は全国的な問題であるが、今までは個人の所有地として別の地に暮らす所有者に委ねられてきた。様々な事情があるが、町並み景観は皆の物という意識と、かつての住人への少しのお節介りを町会が果たせれば、この問題は前進することになるはず。無関心が「役所に任せれば」の二者択一ではない方法を今後も探りたい。
- ・ 「集える場所がない」といった声が多く聞かれたが、時間の経過した空き家を借りて利活用するには修理も必要である。

事業の写真



町内景観を損ねる空き家、空地



A邸修景作業：除雪



A邸修景作業：樹木の伐採



A邸修景作業：前庭の修景完成



修景完成お披露目会：豚汁振る舞い



修景完成お披露目会：健康・介護相談会



法光寺町町会 町内会独自の「役に立つ防災・減災訓練」



共同実施団体：金沢市（土木局内水整備課、駅西消防署森本出張所）

目 的

平成29年度に初めて町会独自の防災訓練を実施したが、今後も町会行事の一環としてこの防災訓練を継続し、町会、町民全体が防災・減災に対する意識付けを図っていく。また、この各種防災訓練を通して、町民同士が助け合う「共助」の精神を持つようになることを目指す。

概 要

実 施 日：平成29年11月12日(日)8：00～11：30

場 所：法光寺町ふれあい公園

参加人数：70名

訓練内容：・災害対策本部立ち上げ訓練（各行政機関との連絡等）

・情報収集訓練（被害状況の連絡、収集、共有化等）

・救出訓練（倒壊家屋からジャッキ等を使用して救出）

・救命訓練（A E D操作、胸骨圧迫法の体験）

・搬出訓練（怪我人、要支援者に担架を使用して搬出）

・水防訓練（土のう作り、土のう積み体験）

その他、高齢者の安否確認、初期消火、炊き出し等の訓練及び非常時持ち出し品等の展示を実施。

実施スケジュール

時 期	内 容	場 所	備 考
9月下旬	防災訓練実施に関する町会通信の発行	法光寺町集会所	アパートも含め全戸配布
9月下旬	救命、水防訓練の講習を依頼		救命訓練：駅西消防署森本出張所へ依頼 水防訓練：内水整備課へ依頼
10月中旬	情報掲示板、担架、倒壊家屋（ミニチュア）、消火器、防災食等の準備		訓練の時に必要なものを準備
11月12日 （防災訓練を実施）	テント設営、情報掲示板の設置、各種訓練の区割り用カラーコーンの配置等	法光寺町ふれあい公園	防災訓練実施日の朝、設置

事業の運営体制

役 割	人 数	備 考
災害対策本部、情報連絡	20人	情報掲示板等の準備
救出、救命、搬出、消火	40人	担架、倒壊家屋（ミニチュア）、ジャッキ、バール、消火器等の準備
高齢者安否確認、炊き出し	10人	町会地図、高齢者一覧、防災食、保存水等の準備

事業実施にあたり工夫した点など

- ・一つの公園の中で、10項目の防災訓練についてカラーコーンで区割りしてコンパクトにまとめ、参加者全員が短時間ですべての防災訓練を体験できるようにした。
- ・各10人のグループで班編成を行ない、ローテーションを組んで、時間割にしたがって各防災訓練を体験してもらい、効率の良い訓練を実施できた。
- ・各グループには責任者をおき、スムーズに各防災訓練をローテーションにしたがって体験できるようにした。
- ・各防災訓練コーナーにも責任者をおき、分からない点等があれば説明できるようにした。
- ・訓練を始めてから最後の訓練はちょうど昼時になるようにし、炊き出し訓練として防災食を試食してもらい、どのような食べ物かを体験できるようにした。

事業の成果

防災訓練実施後の参加者のアンケート調査結果から、参加者の多くの方はこの防災訓練を通して何かを感じ取っており、防災に対する意識付けのきっかけになっていると感じている。また、災害時にはお互いに助け合わなければいけないという「共助」精神も芽生えてきたと考えている。下記はアンケート調査結果の一部。

- ・ほとんど初めて体験した事ばかりだったので、見ているのと実際にやるのとでは大違いだった。これから防災の記事やテレビなどで関心を持って見たい。
- ・充実していて大変勉強になったので、町民全体の防災意識を高めるために多くの方に参加していただければ良いと思う。
- ・訓練は必要だと思いますので、これからも続けてほしい。

課題や今後の展望など

災害時、要支援者世帯・高齢者世帯・単身高齢者世帯に対する安否確認をいかに的確に、素早く出来るようにするにはどうすれば良いかが大きな課題の一つである。特に避難要支援者の方については、一番重点を置いて対策を進めていかなければいけないと考えている。町会では平成30年度、災害発生時、避難要支援者別にだれが安否確認をするのか、「避難要支援者別安否確認体制」を仕組みとして確立させた。そして平成30年度の防災訓練では、災害を想定して、実際に登録されている避難要支援者の方に対して担架を使用しての搬出訓練を実施した。今後は、さらに的確で素早い安否確認方法と搬出方法等を検討し、避難要支援者の方が安心して暮らせるように取り組みを進めていかなければいけないと考えている。

事業の写真



災害対策本部の立上げ訓練



搬出訓練





目 的

次の3点を目的とする。

- 町会活動を活性化させるために必要なスキルを学ぶこと。
- 町会住民が気軽に集まって話せる場づくりを体験すること。
- 町会運営における役員・スタッフを育成すること。



概 要

上記の目的に沿って次のように取り組む。

- ①町会活動を活性化させる勉強会の実施については、金沢かがやき発信講座の利用および金沢ボランティア大学校などから紹介を受け金沢市内の参考となる町会の取組みを学ぶ。
- ②住民が集って語り合う場づくりの実施については、かなざわコミュニティ・コーディネーターなどの協力のもと、町会周辺の会場を借りて町会活動を活性化するためのアイデアを出し合うサロンを2回実施する。
- ③町会役員やスタッフの育成については、上の勉強会やサロンの実施に参画してもらうとともに、運営会議を通じて町会活動に参加しやすい土壌を作っていく。

実施スケジュール

時 期	内 容	場 所	備 考
10月	勉強会：「地域見守り活動の実践について」	マンボウ金沢	講師：米丸校下社会福祉協議会 会長 川元 傳 氏
11月	勉強会：「コミュニティ条例とサロンについて」	マンボウ金沢	講師：金沢市市民局 市民協働推進課
12月	サロン：「町会活動を活性化するための 楽しいアイデア」	マンボウ金沢	運営：金沢ファシリテーターズ
2月	サロン：「みんなが集まって楽しめる場づくり」	マンボウ金沢	運営：金沢ファシリテーターズ

事業の運営体制

役 割	人 数	備 考
事業の企画・運営	14人	町会役員および事業委員
勉強会の実施（講師等）	5人	ボランティア大学校、市役所、米丸社協、諸江社協
サロンの準備・運営	20人	金沢ファシリテーターズ、市役所

事業実施にあたり工夫した点など

今回の勉強会及びサロンを開催するにあたり、多くの住民の方々に参加していただくため、町内の回覧板だけの周知ではなく、全世帯への案内及び班長さんや各部会への動員を行ったことが功を奏し、幅広い年代から多くの方々にご参加いただくことができた。また、諸江地区の町会長及び各種団体にもご案内させていただき、この取組みが地域にも波及するよう取り組んだ。

今回の実施に関しては、町会の役員だけでなく行政との協働を図り、住民とともに町会活動を活性化することが狙いだったので、町会の知恵だけでなく市から他町会の取組みを紹介してもらったり、コミュニティサロンの運営について金沢ファシリテーターズに協力してもらうことで、体系的な事業になった。

事業の成果

事業の周知を丁寧に行なったことにより、今まで町会の取組みに参画する機会が少なかった方も出やすくなったようで、新年度には、その中から新たに3人の方に役員をお願いすることになった。前役員を中心に町会の行事を企画運営する事業部が発足し、これからの町会を活性化する上で、多くの方々に町会運営に携わっていただけるようになった。

サロンの成果として、事業部の集まりの際も、机を合わせ、一方的な説明ではなく、お互いに意見交換しながらホワイトボードなどを使って、目に見える形で和気あいあいと話を進めており、効果が表れている。

課題や今後の展望など

現在の町会事業部は男性だけであり、今後は女性の参加も視野に入れている。年代も50代、40代が中心ということもあり、高齢者の寿会及び子ども会役員の若い世代などとの連携した取組みも図れば、もっと町会が活性化するものと思われる。

今回は、町会の活性化を図ることを目的としたが、諸江地区の町会長および各種団体の方々にも見ていただいたことで、問屋住宅町会の取組みが諸江地区の先進事例となるよう、町会役員一同でますます地域コミュニティの活性化を推進していきたい。

事業の写真



11月勉強会の開催



12月サロンの風景



12月サロンの風景



2月サロンの風景



大河端町町会 町会ホームページによる町民参加型コミュニティ創造事業



（ホームページ <http://okobatamachi.com>）
共同実施団体：大河端町町会役員会・自主防災会

目 的

大河端町町会は土地区画事業により、平成27年から町会加入戸数が増加し、180軒から340軒の大きな町会となった。

特に若い子育て世帯が大半であり、インターネットを活用することにより、町会行事・自主防災会活動・町会活動情報を発信する事により、町民相互のコミュニケーション活性化と、新しい文化創造を目的に、町会ホームページを作成することとした。

概 要

町会ホームページの目的である、町会行事・自主防災会活動・町会活動を多くの町民に知っていただき、若い世帯が参加する町会形成を目標に、ホームページへの掲載内容を検討した。

- ・町会行事の掲載（回覧板で町会行事を回すが、時間・場所等を後で確認する事がある。）
- ・防災情報の掲載（自主防災会より活動状況を発信し、地域の防災意識醸成を図る。）
- ・回覧物の掲載（回覧日数の制限もあり家族全員が見る事は難しい。回覧物を回した後から確認したい物がある等。）

町会ホームページへの掲載内容を以上に決定すると共に、作成を依頼する。

- ・作成要件
作成・・・凝った作りはしない。目的は町民相互の情報交換の道具であり、作成には時間を掛けない事とする。
- 体制・・・町会内にIT関連の技術者が数名いた為、協力頂く事とした。作成は外部に委託作成した後、町会員に勉強会を開催して引継いだ。

実施スケジュール

時 期	内 容	備 考
8月	ホームページ開設準備	
12月以降	町会からのお知らせ・回覧板・防災情報等を作成、月一回更新	

事業の運営体制

役 割	人 数	備 考
事業全体の企画、全体調整	10人	町会役員
掲載内容の検討	5人	自主防災会
技術的支援・問題解決	2人	IT技術者

事業実施にあたり工夫した点など

目的は町会行事・自主防災会活動・町会活動を多くの町民に知っていただき、若い世帯が参加する町会にする事であり、ホームページ更新作業に時間が掛からないように、スキャナーで読みとった資料を掲載する形式とした。

- ・掲載する内容は町会行事・防災活動・町会活動とし、町会役員会において決定する。
- ・1回のホームページ更新作業は1時間程度とする。

事業の成果

従来、町会行事は、掲示板及び回覧板により町民に知らせていた。しかし、町会活動への要望として、回覧板の回し方・回覧頻度等に関する改善要望が町会役員会に寄せられていた。

ホームページに「回覧板」を載せたところ、町会行事への参加者も増加した。

公園清掃参加者 昨年は10名 ⇒ 今年は30名（特に、30歳～40歳代の若者が増加）

「回覧板」、「住宅地図」、「防災情報」が便利との意見が多く聞かれた。

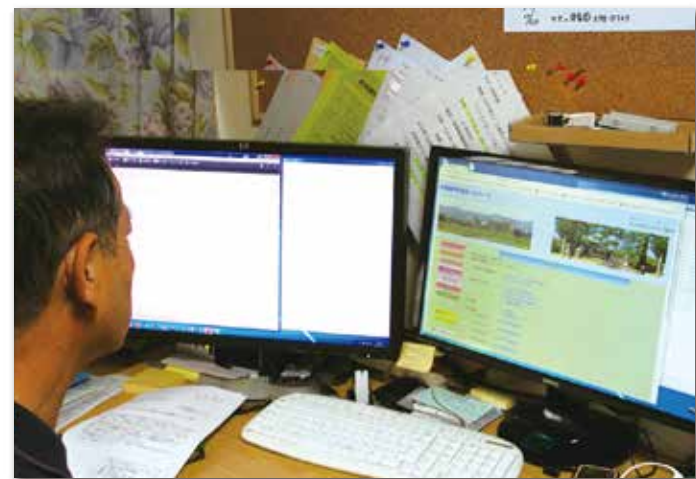
課題や今後の展望など

ホームページの維持・更新作業を行うメンバーが特定されるため、タイムリーな更新が行えない時がある。また、作業を行うメンバーも今後、継続して作業をする事が困難な状態であり、維持体制を構築することが今後の課題となっている。

事業の写真



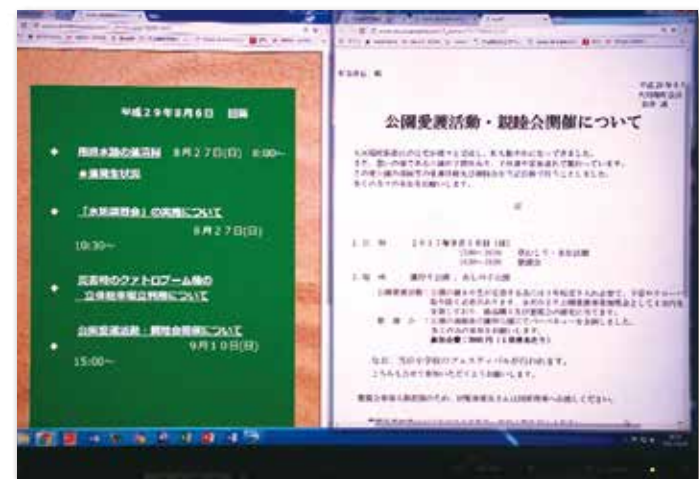
町会役員会の様子



ホームページ作成



大河端町町会ホームページ



回覧版ページ



北寺町会

「農業体験と収穫祭」による町会活性化事業



目 的

北寺町の現風景である田園地帯を理解し、老世代から現役世代そして子世代へと3世代へ地域に魅力を感じ「ふるさと」意識を育て次世代へ絆を深め、つなぎ、住みよい町づくりを目的とする。

概 要

「農業体験と収穫祭」のふれあいの場を通して絆を深める町会活動の取り組みを行った。町会の米生産者から田を借り受け子供達に田植えから米生育・収穫を体験してもらい、できたお米で、おはぎを作り、食してもらう事とした。生産者が米作りの講師を務め、おはぎ作りは、経験者の協力を得て実施した。

実施スケジュール

時 期	内 容	場 所	備 考
8月1日	参加呼びかけ		町会全戸配布チラシ
8月6日	行事实施(稲生育観察)	北寺町借地農地	
8月下旬	行事案内配布(稲刈、おはぎ作り案内)		農業体験者対象に参加呼びかけ
8月20日	第1回行事反省会及び第2回打合せ	北寺町神社社務所	
8月27日	行事实施(稲刈り)	北寺町借地農地	
9月上旬	行事案内配布(太鼓行列、おはぎ作り)		農業体験者対象に参加呼びかけ
9月17日	行事实施(太鼓神輿行列・おはぎ作り)	北寺町神社社務所	
10月22日	第2、3回行事振り返り及び第4回打合せ	北寺町神社社務所	
1月21日	第4回行事反省会	外環状道路海側幹線 コミュニティセンター	
2月25日	事業実施効果等評価会議	北寺町神社社務所	

事業の運営体制

役 割	人 数	備 考
水稻生産講師	1人	
おはぎ作り講師	1人	
水稻観察、稲刈り協力	延べ14人	育成部、青年部、子供の親(2回の体験)
おはぎ作り協力	18人	敬老会、婦人部、育成部、青年部、子供の親
太鼓神輿行列	8人	育成部、青年部、子供の親

事業実施にあたり工夫した点など

この事業を行うにあたり町会各部の協力が不可欠である為、今回の事業で関連する部(敬老会、青年部、育成部、婦人部)の協力をお願いした。

協力体制の中で皆さんに負担がかかってはいけなないので、町会行事に合わせて事業を進めて行く事とし、極力皆さんの負担を減らす事を工夫した。

事業の成果

子供達は、中々できない体験を楽しみながら学び、自分の為になったと考えられる。おはぎ作りには中学生も参加し、楽しくおいしく食する事ができた。おはぎ作りは指導できる敬老会の方がおらず、知人の饅頭屋や婦人部・育成部の協力を得て実施した。町会の方々と触れ合いながら子供達が楽しく明るくできた事が良かった。協力頂いた方々も子供達と楽しい時を過ごし町会住人と子供達の絆が深まったのではないかと実感した。

課題や今後の展望など

参加していない大人の方から、子供達の楽しそうな姿を見て「今後も継続してやればどうか」との声も聞かれ、参加こそしなかったが興味があるように感じたので、このような方も参加できるふれあいの場を検討したい。

今回の事業を通じて少子化が進む中、大人達とのふれあいの場がなくなりつつあるのが不安であり心配である。

今回の事業を通じて、今後の事業を展開するにあたり、町会の方々の積極的な参加が必要であると思うが、協力してくれる方がいないのが現状であり、高齢者が増えていく中で、若い方の同居も減ってきているのも問題で、自分達の町をどうしたら住みよい街にできるかを共に考え行動を取ってくれる人が増えて欲しいと願う。

事業の写真



米の生育観察



稲刈りの実施



おはぎ作りの打合せ



中学生も参加しておはぎ作り





目 的

当地区は1970年以前から地域に定住する方が多く、長く人の出入りがない地域であったが、近年、ニューファミリーが急増し、昔からの世帯と新しい世帯が混在する地域となった。2016年より、旧世代と新世代をつなぐ交流イベントに力を入れ始め、世代の橋渡しに関して一定の成果が出始めている一方で、催しに参加できない高齢者世帯、あるいは未就学児を持つ子育て世代が出始めている。本事業では世代間交流、並びに地域住民の意見交換、健康増進、家庭教育の一環となる取り組みを継続に行うことで、地域の風通しの良さを実現し、次世代に繋げる風土・文化を構築していく。

概 要

地域に孤立しがちな高齢者世代、またサポートの必要な子育て世代の世代間交流が実現する地域の学び舎を開設し、継続運営する。

実施スケジュール

時 期	内 容	場 所
平成29年 9月27日(水) 9:00～12:00	第1回 「自分でできるハンドマッサージ体験」ネイリスト 窪田美紀 氏 「毎日を笑って楽しく笑いヨガ」笑いヨガ講師 荒牧裕子 氏 「腰やひざ痛のための気癒整体」整体師 鹿本万記子 氏 「暮らしの法律相談」弁護士 辻明士 氏 参加者／男性4名、女性13名(8か月乳児～80代)	三馬町会館
平成29年 11月29日(水) 9:00～12:00	第2回 「認知症サポーター養成講座」地域包括支援センターやましな 「姿勢矯正ぴんしゃんウォーク」デューク更家認定 宇多田円 氏 「血圧測定＆健康相談」キャンナス金沢 「法律相談 ダンナが亡くなる前にしておきたいこと」 相続贈与相談支援センター石川支部 参加者／男性6名、女性18名(40代～80代)	三馬町会館
平成30年 1月31日(水) 9:00～14:00	第3回 「みんなで語る、50年前の三馬の話」 金沢大学名誉教授、聞き書き講師 天野良平 氏 「おとなのアート教室～臨床美術体験」臨床美術士 荒牧裕子 氏 「おとなのための整理・収納術」整理収納アドバイザー 村松淑子 氏 「おとなの習字教室～絵手紙教室」書道家 下嶋光子 氏 参加者／男性10名、女性20名(40歳～86歳)	三馬町会館

事業の運営体制

団体代表者1名、町会役員(町会長1名、経理1名、総務1名)、町内外支援スタッフ16名の20名

事業実施にあたり工夫した点など

全3回の勉強会&交流会の形式で、地域サロンを実施した。各回、外部からの講師、町会内からの講師を募集することで、参加者が興味を持ちやすいテーマ設定で、企画を実施することができた。0歳児から80代の女性が参加できるよう、場づくりを楽しいものとし、参加者が学習内容の理解を深めることができやすいように工夫した。

事業の成果

世代間交流、地域交流を目的とした活動を行うことで、町会内に増えている老夫婦、独居高齢者の交流や健康長寿に関する動機づけを行うことができた。また、次代を担う子育て世代の情報共有、精神的支援も行うことができ、世代をまたいだ顔の見える化が実現。以後の活動・交流の活発化を推進することができた。

- 町会内の子育て世代、高齢者世帯の顔の見える化、交流が実現した。
- 全3回の実施で、町会内外から多数の参加があった(延べ71名)。
- 平成30年度の継続実施を願う声を多数聞くことができた。
- テレビで活動が紹介された(平成30年1月31日夕方ニュース)。
- 活動へのボランティア参加を希望する方が3名あった(防災士、ケアマネージャー、介護従事者)。

課題や今後の展望など

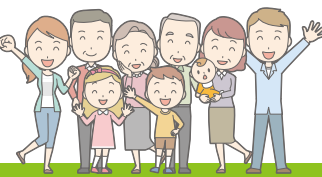
「独居高齢者のリピート参加増・いきがい支援」、「シニア世代と現役世代の交流のさらなる活性化」、「地域の子どもたちの育成支援を地域全体で取り組むための土台作り」、「地域住民の課題解決を楽しく持続可能性のあるものとするようサロンの事業化」、「住民が参加しやすいよう町内での継続実施可能な居場所づくり」、「校下全域からの企画参加者増」、「校下全体への事業取り組みの認知拡大」など。

事業の写真



まちの寺子屋の様子





目 的

開設するサロンカフェに町会員が趣味で創ったモノを置き、これをきっかけに人が集まり会話が行われ、地域内流通と交流を深めるコトを起こし、コミュニティを活性化する。

また、高齢者が活躍できる場をつくり、声を掛け合い支え合いながらいつまでも元気に楽しく暮らせる地域づくりの一助とする。

概 要

- ・平成29年9月17日(日) 町会内店舗の一部を借りて、「ひかりカフェ」オープン
- ・毎週月曜、木曜の2回、午前10時～午後4時開店。イベント開催日は臨時開店
- ・10名のボランティア町会員が交代で常駐
- ・町会員が制作した作品を展示し、2週間で次の方に入れ替え
- ・実施済イベント 抹茶提供3回、野菜朝市5回、ハッピーハロウィン(子ども対象)
皆でつくるクリスマス(子ども対象)
- ・創作体験教室 展示物制作者を講師に招き開催 押し花アート、ちぎり絵
- ・出展者 20名



実施スケジュール

時 期	内 容	場 所	備 考
8 月	ひかりカフェ開設運営検討	光が丘会館	運営委員会開催
9月初～中旬	設営、展示、運営準備、広報	光が丘会館、ひかりカフェ	運営委、スタッフ会議
9月17日	「ひかりカフェ」オープン	ひかりカフェ	

事業の運営体制

役 割	人 数	備 考
設営、展示、運営、広報等基本計画決定	5名	ひかりカフェ運営委員会
設営、展示、運営、広報等詳細計画決定及び実施	10名	カフェスタッフ会議

事業実施にあたり工夫した点など

- ・立地にあたり、立ち寄り易く、戸外から室内の様子を伺うことのできる場所を考慮した。そこで、町会の中央に位置し、集会所である光が丘会館にも近い、前面ガラス張り店舗の一部を借り上げて実施することにした。
- ・出展者をできる限り多く発掘し、解説文を作成して紹介したことにより、会話、理解、交流が深まり新たな出会いも生まれ、作品を購入する人も現れた。
- ・多くの人々がカフェを訪れてくれるよう、野菜朝市、抹茶イベントを催しカフェへの親しみをつくった。
- ・町会の子供を呼び込むため、ハッピーハロウィン、皆でつくるクリスマスイベントを催し、高齢者との交流が生まれるようにした。
- ・カフェ PRのため、毎月「カフェ通信」を隣接町会も含め班回覧した。

事業の成果

- ・町会員の展示作品を介して、来店者の間で会話と交流が深まるとともに子ども対象のイベントに子供達に参加したことにより、さらに町会が活性化した。
 - ・高齢者が出かけるきっかけとなり、展示物制作者やボランティアスタッフの「活躍の場」となった。
 - ・カフェ運営に隣接町会の参加協力が得られ、町会の絆を超えて絆が深まった。
- 【参加人数(利用者数)】カフェ 400人 イベント 400人

課題や今後の展望など

- ・カフェの存在や開催するイベントの情報をどのように町会員や隣接町会へ効果的に広報していくかが課題である。
- ・ボランティアスタッフの負担を軽減する工夫を考えながら、今後も継続して開設したいと考えている。

事業の写真



ひかりカフェを支えるスタッフ



オープン記念事業 湯涌朝市



押し花アート体験教室



キルティングおもちゃ作品展示



「ハッピーハロウィン」開催



「ハッピーハロウィン」開催



泉が丘致芳会 町会誌発刊事業－町名変更50周年記念



目 的

2017年(平成29年)が「じおうせんまち地黄煎町」から「泉が丘」への町名変更50周年に当たり、町会名・新旧町名の由来、町会行事、町会の移り変わりなどを一冊にまとめ、未加入世帯の町会加入の一助にする。

町会区域には約400世帯あり、うち加入世帯250世帯、未加入世帯70世帯、子供会・長寿会など一部加入世帯80世帯。加入世帯の絆の増進とともに、未加入、一部加入の世帯に加入してもらうためのツールとしても使用する。

概 要

町会誌はA4、36P(本体32P)で構成。町会の歴史をつづるだけでなく、今昔が分かるように心掛けた。表紙及び中面に、閉校した旧弥生小学校の記念航空写真を使って新旧町会区域を分かりやすく表示したほか、「町会と周辺地域の主な施設」、「町会名、町名の由来」、「町会の年間行事」、「北國新聞記事で見る町会の活動」、「町会の名所・名産・名人」、「町会と周辺の歴史」、「写真で見る町会の移り変わり」などの項目で構成。付録に「町会住宅明細図」と「昭和20年代の町会地図」を付けた。

実施スケジュール

時 期	内 容	場 所	備 考
4月8日	町会誌発刊承認	泉が丘致芳会館	29年度町会総会で決定
6月4日	編集委員会打ち合わせ	//	計5回開催
7月～11月	執筆作業、写真収集		
2月17日	完成、全世帯配布		

事業の運営体制

役 割	人 数	備 考
編集委員	6人	町会役員が担当
聞き取り、写真収集班	5人	町会有志が担当

事業実施にあたり工夫した点など

標題を「町会史」ではなく「町会誌」とし、歴史にとどまらず現在の町会活動も紹介して、町会住民に親しみやすい内容となるよう工夫した。

周辺に小中学校、図書館、公園、病院、スーパー、運動施設など非常に恵まれた住環境にあるうえ、住民同士の絆が強く活動も活発な町会の特徴を、細かな部分までまとめた。

これまでに町会に関してまとめたものはなく、古老からの聞き取り調査や文献集めに苦労した。写真も昭和30年代以降は集合写真が多く、往時の面影をしのばせる風景写真を集めるのに回覧で提供を呼びかけもした。住民の協力のおかげで後世に残せるものができたと思っている。

事業の成果

町会誌発刊事業を町会未加入世帯、子供会・長寿会などの一部加入世帯を含めて回覧でPRするとともに、出来上がった町会誌を区域の全400世帯に配布した。

古くから住む住民からは「知っているようで知らないことが多くあった。改めて町会に愛着が持てた」との声が寄せられた。新興住民からは「知らないことだらけで、終の棲家として選んだ地区のことがよく分かった」との感想が聞かれた。

事業面では、バーベキュー大会203人(前年168人)、社会体育大会135人(同120人)など参加者増となって効果が表れている。

課題や今後の展望など

平成30年度から町会未加入世帯、一部加入世帯の勧誘を本格化させており、息の長い加入促進活動が続ける必要があると思っている。

また町会誌発刊を機に「ふるさと愛」醸成に向けた事業を種々検討している。

事業の写真



泉が丘致芳会町会誌



平成29年度地域コミュニティ活性化モデル事業として採択された事業一覧

(前掲の11事業以外の取組み)

採択団体名	校下(地区)	事業名	事 業 概 要
此花地区町会連合会	此 花	春の健康レクリエーション祭開催	町会対抗3世代3種室内軽スポーツ競技大会(室内グランドゴルフ・室内カローリング・ダーツ)を開催
西南部校下町会連合会	西南部	西南部健康マージャン大会	校下内の高齢者の健康増進と親睦・交流を図るとともに、近年社会問題化している認知症予防にも効果が期待できる麻雀を取り入れた親睦事業を実施
安原地区町会連合会	安 原 二 塚	平成29年度『安原地区・二塚地区住民合同震災訓練』	金沢市で初めてとなる2校下(地区)の住民が合同で、地域の特性を生かした震災訓練を実施
湯涌校下町会連合会	湯 涌	ソーシャルメディアを活用した地域コミュニティ活性化事業	フェイスブック等のソーシャルメディアを活用して、地域住民の皆が情報の発信者となれる体制を作り出すとともに、集積した情報を編集・印刷して地域新聞を発行
田上校下町会連合会	田 上	田上校下町会連合会・防災演習の実施について	アパート・マンション管理会社との連携で学生の安否確認を行うとともに、コミュニティ防災士を軸として、学生や留学生、各町会の防災委員による防災訓練を実施
野田町町会	長坂台	フェイスブックによる町内情報伝達の試み	行事予定を公開するとともに、情報交流を促進する町会内限定のフェイスブックページを開設
寺中町会	大 徳	ホームページ・ブログの開設による広報活動事業	町会活動を住民に周知するとともに、住民同士の情報交流を図るホームページを開設

